

鴨居の歴史探訪

ここではほんのちょっと「東本郷・鴨居・竹山・白山」地区の歴史をのぞいてみましょう。また、伝統行事や大勢の人で賑わうお祭・イベントも紹介しています。



歴史

鶴見川のほとりに位置する鴨居駅周辺の「東本郷・鴨居・竹山・白山」は、紀元前5000年頃には海（古鶴見湾）のほとりであった。貝塚や遺跡の存在から、その頃からすでにこのあたりで人が生活していたことがうかがい知れる。中世・近世の時代においても、鎌倉道、神奈川道が通っていたことから、人の往来が盛んであったものと思われる。古くから農業地帯であったが、明治時代に入って生糸を運ぶために横浜線が開通し、昭和37年に鴨居駅が開設されると人口は急増した。この駅は地元住民が当時の国鉄に請願し、資金集めや土地の無償提供をして開設された請願駅である。また白山地区には、横浜市が研究所を中心として企業誘致をした「白山ハイテクパーク」が誕生している。

鴨居駅周辺の「東本郷・鴨居・竹山・白山」には平成23年(2011)9月30日現在、19,904世帯、46,793人が住んでおり、緑区全体の約26%に相当する。

町名の由来

【東本郷】

延応元年(1239)に小机本郷村とある。東本郷の一里塚(椿塚)付近を鎌倉道が通っていた。昭和14年(1939)に横浜市に編入され東本郷町となった。

【鴨居】

すでに古くから「カモイ」と称していた。神様がいるとの伝えから「神依」、「神居」、「カムイ」が変化したものであるとか、鴨の群がいたことから「鴨居」になったなどの説がある。

【竹山】

以前は鴨居町字烏森と呼ばれていた。昭和43年(1968)から神奈川県住宅供給公社による団地開発が始まり、昭和46年(1971)に完成して竹山団地となった。

【白山】

近世は都筑郡猿山と称した。猿山とは「対岸の大杉が大風で倒れ、その木が現在の白山町まで届き、猿が木をつたってきて住みついたから」などの説がある。昭和14年に横浜市に編入され、下猿山は白山町に、上猿山は上山町となった。

年間行事

初詣 「杉山神社、白山神社、本郷神社」(1月1日～3日)

悪魔払い「鴨居郷土芸能保存会」(1月上旬)

林光寺だるま市・獅子舞(1月28日)

鴨居杉山神社節分祭(2月3日)

花まつり「宝塔院、林光寺、本柳寺」(4月8日)

鴨居杉山神社祭礼(9月最終日曜日)

除夜の鐘「各寺院」(12月31日)

鴨居エキコン(ミニコンサート)(年3回)

鴨居原市民の森行事「森であそぼう」(5月上旬)、「七夕まつり」(7月第1土曜日)、
「ソーメン流し」(8月第1土曜日)、「クリーンアップ作戦」(11月上旬)、
「正月飾りづくり」(12月第4土曜日)

鶴見川河川敷行事 「どんど焼」(1月第2日曜日)、「こども風のまつり」(5月5日)、
「デイキャンプ」(11月)、「ボーイスカウトバザー」(5月)

◇参考文献 ハマ線地名あれこれ(相澤雅雄 著) ◇監修 黒滝 稔
間違い等お気づきの点がありましたらご連絡下さい。

わたしたちが
この地図を
作りました!

鴨居駅周辺 まちづくり研究会

「鴨居駅周辺まちづくり研究会」は、平成9年度に「鴨居駅及び周辺整備促進協議会」の下部組織として発足し、鴨居駅周辺地域(東本郷・鴨居・竹山・白山)の現況調査や、交通問題解消についての研究、まちの魅力調査等を行ってきました。URL <http://www5f.biglobe.ne.jp/~machiken/> 平成11年度からは市民活動団体として、新しい魅力の創造を目指し、まちづくりに向けて年100回程度の活動を行っています。会員募集中!

鴨居駅周辺の魅力マップ

初版 平成12年 3月発行
第2版 平成18年 3月発行
第3版 平成23年 10月発行

- 発行 横浜市緑区役所
区政推進課企画調整係
〒226-0013 緑区寺山町118番地
TEL.930-2228 FAX.930-2209
- 編集 鴨居駅周辺まちづくり研究会

横浜市広報印刷物登録 第110738号
種別・分類: E-QA120

古紙配合率50%再生紙を使用しています。 50

皆でつくる住みよいまち

鴨居駅周辺の

魅力 マップ



地元でも知らない 名所がいっぱい

鴨居駅周辺にはまだまだみんなの知らない魅力がいっぱい。このマップではそんな魅力を紹介しています。さあ、マップを片手に魅力探しに出かけよう。



鴨居駅周辺まちづくり研究会

鴨居の いいところ 探求ガイド



②鴨居駅 鴨居1丁目
昭和37年12月に開業し、平成10年11月に新駅舎に改装。



①鶴見川 東本郷・鴨居・白山
鶴見川は源流の町田市上小山田から鶴見区生麦の横浜港へ注ぐ全長42.5kmの一級河川である。鴨居は鶴見川の間地点にあたる。以前は、大雨による氾濫から「あばれ川」と呼ばれていたが、現在は河川整備が進み、水害はほとんどなくなった。流域に集う多くの鳥達が人々の目を楽しませてくれる。

自然・公園など



③鴨居原市民の森 鴨居町
平成17年(2005)4月に開園した市民の森。面積は2haと小さいが起伏に富んだ森で杉、山桜、ケヤキ、孟宗竹等が自生し自然をそのまま残している。5月上旬には珍しいハンカチの木の花が開花する。

④関東の富士見百景 鴨居1丁目
国土交通省の「関東の富士見百景」に選ばれた処。鴨池橋(人道橋)から見る富士山は、「鶴見川からの富士」として富士山を背景とした、景観の保全や活用が望まれる公共空間である。



⑤上山ふれあいの樹林 上山2丁目
平成6年10月開園した緑区で最初のふれあい樹林。横浜市が地主から借り上げ、一般に開放している1.1haの樹林で、孟宗竹、杉、白樺、コナラ等の植生する雑木林である。



⑥東本郷公園 東本郷4丁目
自然の山林、数多くの柿木、竹林等をそのまま残して造成された公園である。特に2本の山桜が花咲く風景と都筑区、新横浜方面の眺望が大変すばらしい。公園の入口にあるログハウスのトイレが珍しい。開園は平成6年3月25日で、面積は約1.6haある。



鴨居のおすすめビュースポット



⑦東鴨居中学校の西側台地 鴨居3丁目



⑧竹山団地のイチヨウ並木 竹山1~4丁目



⑨白山のトウカエデ 白山2・4丁目



⑩東本郷のケヤキ並木 東本郷3・4・5丁目

寺社



⑪天照皇大神宮 鴨居5丁目
鴨居川沿いの古道旧中里にある神明社で、今も里人によって守られている。古来の天照大神宮は、明治39年の神社併合令により杉山神社に合祀されたため、地元旧家によって今の天照皇大神宮が造立された。永遠奉祀によって、子孫長久家福増進を祈るものとされている。



⑫天満宮 鴨居4丁目
明治の中頃、岩岡時次郎が妻の産後の肥立ちのよくないことを占い、天満宮と馬頭観音にご利益ありとご託宣を受けた。九州の太宰府天満宮の承諾を得、明治21年、小祠を建て入魂してもらった。区画整理により、消滅の危機となったが、地元住民の尽力により、現在地に平成18年9月遷座した。



⑬本柳寺と五輪塔 鴨居2丁目
日蓮宗、蓮秀山本柳寺。開山は一陽院日教(天正5年没)。開基はもと小田原浪人柳下豊後守某の後裔若狭と伝える。境内には鎌倉時代末期のものと思われる五輪塔が3基並んでいる。

塚



⑭ごはん塚 鴨居7丁目
畠山重忠の家臣数名のものと伝えられる塚。元久2年6月の鶴ヶ峰の合戦で北条氏に敗れた家臣の骸を村人が手厚く葬るため塚を立てた。以前はこのような塚が5つあったが、開発により現在は1つのみとなった。



⑮一里塚(椿塚) 東本郷6丁目
八王子宿より神奈川宿へ通う道で、神奈川往来と里人は呼んでいた。新編武蔵風土記稿によると「農民喜左衛門がかまへの前に昔の一里塚の跡なりて、四角に築きし塚あり」とある。今は記念碑と後人が植えた椿の木が往時を偲ばせてくれる。

風格と格式の高さがしのばれる長屋門



⑯岩岡家の長屋門 鴨居4丁目
元江戸大崎大鳥城下の大名屋敷門。弘化2年(1845)頃移築したものといわれている。元禄(1690年代)頃より、村役などを務めた農家に限り長屋門を構えることが許されるようになったことから、岩岡家が代々名主などの家柄であったことがわかる。

⑰林光寺と奇利吹の滝

鴨居2丁目

古儀真言宗、鴨居山明王院林光寺。開基は宝徳元年義慶法印と伝える。本尊は波切不動明王。奇利吹の滝は参道脇にあり、出羽三山の山嶽信仰の人達が、この滝に打たれて修行したといわれている。



⑱東観寺と俗体男女並坐像浮彫墓標

東本郷1丁目

古義真言宗 瑞照山慈眼院東観寺。天平の頃、行基菩薩がこの地を訪れ、聖観音を彫刻し、精舎を建立したと伝えられる。寺宝として龍神像や梵字で線刻された文殊菩薩像等がある。俗体男女並坐像浮彫墓標(横浜市指定文化財)は境内にある。



⑲鴨居杉山神社

鴨居4丁目

宝徳元年の創祀と伝えられ、祭神は日本武尊。本殿裏崖上に榛名大神、大山阿夫利神社が祀られている。拜殿内には嘉永4年作「国性爺合戦」など大絵馬2枚、中絵馬4枚と高札等が保存されている。



春には桜の花が楽しめる。

遺跡



⑳鴨居原遺跡

鴨居町

約7000年から8000年前の縄文時代の遺跡。堅穴住居跡や炉穴、焼土等が見つかった。また、ケモノの落とし穴と思われる土壌が100基以上発掘され縄文人がシカやイノシシなどを追っていたことがわかる。

㉑殿谷遺跡

鴨居3丁目

縄文時代の土壌、弥生時代の集落跡、古墳時代の遺跡。昭和60年8月から12月にかけて発掘調査が行われ、大昔の人々が使った土器等が発見された原始・古代の遺跡である。

㉒東耕地遺跡

東本郷5丁目

県立みどり養護学校がある台地上一帯は、東耕地遺跡と呼ばれ、昭和54年、56年に発掘調査が行われた。落とし穴(縄文時代)、堅穴住居・方形周溝墓(古墳時代)、堀立柱建築遺構(平安時代)等が発見された複合遺跡である。



殿谷遺跡



東耕地遺跡

石碑



㉔双体道祖神

鴨居町

道祖神は、村境や峠などの分かれ道に立ち、地域内に疫病や鬼が入らぬ様に見張る神である。双体道祖神は男女を刻んだもので、堅き男女の仲には疫病といえども入ることができないといわれている。



㉕バス停前の地蔵

鴨居町

二百六十余年前頃、鴨居村(当時)村人の造立した地藏像。地藏菩薩は、釈迦如来が没した後、弥勒菩薩が出現するまでの無仏の世界において、現世利益と亡くなった人の苦しみを救い、穏やかな浄土に導くとされている。



㉖辻山の庚申塔

鴨居町

元文5年及び明和元年に造立された庚申塔。鴨居から菅田へ越す頂上付近で、白根、長津田方面への分かれる道(辻)が、山中にあったことから辻山と称された。この庚申塔は風雨に曝されながらも迫真の彫刻である。



㉗女神像の地神塔(横浜市指定文化財)

鴨居6丁目

享和3年に造立された地神塔のほか庚申塔、道祖神がある。関東での地神塔は文字碑が大部分で、女神像の地神塔は、五指にも満たないたいへん珍しいものである。



㉘猿山村領主の墓

白山2丁目

寛永19年、元猿山領主佐野次郎兵衛政成と妻の墓碑。佐野次郎兵衛政成は、將軍家光により、武器のたしなみがあり、数多く蓄えていたことを褒め称えられ、猿山村と佐江戸村を与えられたといわれている。



㉙鴨居小学校発祥の地

鴨居6丁目

明治6年6月、横浜市立鴨居小学校が発祥した処。大川家の先祖である大川熊太郎は、仕事の暇を見ては、近くの法因寺の広祥和尚に読み書きを習い、のち私塾を開き、その私塾がそのまま鴨居小学校となった。

このほかの石碑

- 庚申塔 (東本郷4丁目、本郷神社前、鴨居原、鴨居5丁目、善徳院前、鴨居7丁目)
- 地蔵 (鴨居駅前、鴨居3丁目、白山2丁目) ● 地神塔 (鴨居2丁目、鴨居町)
- 大六天守護神 (竹山2丁目) ● 天神像 (東本郷6丁目) ● 観音像 (鴨居町)

海の幸が採れた7000年~8000年前

㉚笹山貝塚

上菅田町

以前は台地斜面一帯の畑が白く見えるほどカキやアサリなどの貝殻が散乱していた。縄文人の食料となった海の幸であったろうと思われ、このあたりまで海蝕が進んでいたことがわかる。このあたりからの眺望はすばらしく、天気の良い日には富士山や丹沢、大山を望むことができる。